

## 国産木材活用住宅ラベル計算シート入力マニュアル Ver1.4

(目次)

I. 戸建住宅用計算シート	1
1. 「1_入力シート」の入力	1
2. 「2_出力シート」の確認	3
3. 「10_炭素貯蔵量算定入力シート」の入力	4
4. 「12_炭素貯蔵量算定出力シート」の確認	8
II. 共同住宅、併用住宅用計算シート（棟別略算用）	9
1. 「1_入力シート」の入力	9
2. 「2_出力シート」の確認	9
3. 「10_炭素貯蔵量算定入力シート」の入力、出力	9
III. 共同住宅、併用住宅用計算シート（住宅別計算用）	11
1. 「1_入力シート」の入力	11
2. 「2_出力シート」の確認	11
3. 「10_炭素貯蔵量算定入力シート」の入力、出力	11

## I. 戸建住宅用計算シート

### 1. 「1\_入力シート」の入力

- ① 青色のセルは必須入力ですので、「1\_入力シート（記入例）」を参考に、記述又はプルダウンで該当する情報を必ず入力して下さい。（以下、3の「10\_炭素貯蔵量算定入力シート」の入力において同じ。）
- ②外構部（木の塀、門、ウッドデッキ等）に用いられた木材を算入する場合には、外構部の水平投影面積を加算して下さい。
- ③オレンジ色のセルは任意入力ですので、「1\_入力シート（記入例）」を参考に適宜入力して下さい。（以下、3の「10\_炭素貯蔵量算定入力シート」の入力において同じ。）
- ④『国産木材』か『国産木材・外国産木材の混合製品』の別（F列）欄は、「国産木材」か「混合製品」であるかをプルダウンメニューで選択して下さい。
- ⑤国産木材を使っている場合は、「国産木材」の「樹種」（G列）欄から該当する樹種をプルダウンメニューで選択して下さい。④の『国産木材』か『国産木材・外国産木材の混合製品』の別（F列）欄で「国産木材」を選択していないと入力できません。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	国産木材使用量等の算定シート 入力シート (ver.1.4) (戸建住宅用)								
2									
3			算定年月日	2025年〇月〇日					
4			住宅生産者名	〇〇〇〇					
5			建物名称	〇〇部					
6			延べ面積[m <sup>2</sup> ](外構部の水平投影面積を含む。)	165.0					
7			算定者	〇〇〇〇					
8						「国産木材」が「混合製品」であるかをプルダウンメニューで選択して下さい。			
9						「国産木材」か「国産木材・外国産木材の混合製品」の別			
10							樹種	使用量 (単位:m <sup>3</sup> )	名称
11									
12									
13									
14	1	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材	製材	製材、105mm正角材、柱	国産木材	スギ	8.0	スギ
15	2	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材	製材	製材、105mm正角材、土台	国産木材	ヒノキ	2.0	ヒノキ
16	3	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材	集成材	集成材(ヒノキ+スギ)、105×210、240、270mm、梁のうち	国産木材			
17	4	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材	集成材	集成材(ヒノキ+スギ)、105×210、240、270mm、梁のうち	国産木材			
18	5	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材	集成材	集成材(ヒノキ+スギ)、105×210、240、270mm、梁のうち	国産木材			
19	6	合板区分(合板・VL等)				0mm、壁、	混合製品		

①青色のセルにラベル表示の必須項目を入力して下さい

②外構部に用いられた木材を算入する場合には、外構部の水平投影面積を加算して下さい。

③オレンジ色のセルに部材、製品名等を入力して下さい

④「国産木材」か「混合製品」であるかをプルダウンメニューで選択して下さい

- ⑥集成材や CLT 等で1つの製品に複数の国産樹種が入る場合は、行の上下二段を活用して樹種を分けて入力して下さい。

国産木材使用量等の算定シート 入力シート (ver.1.4) (戸建住宅用)										
1	算定年月日		2025年〇月〇日							
2	住宅生産者名		〇〇〇〇							
3	建物名称		〇〇郡							
4	延べ面積(m <sup>2</sup> ) <small>(外構部の水平投影面積を含む。)</small>		165.0							
5	算定者		〇〇〇〇							
6	外構部(木の扉、門、ウッドデッキ等)に用いられた木材を算入する水平投影面積を加重して下さい。									
7	⑥複数の国産樹種が入る場合は、行の上下二段を活用して入力して下さい									
8	「ヒノキ」「スギ」を分けて入力して下さい									
9	<シートの構成> 「1_入力シート」:住宅に使用した木 「1_入力シート(記入例)」:「1_入力 「2_出力シート」:国産木材活用住宅 「3_各種係数値」:国産木材と外国産木材									
10	◆セルの色について、青は必須入力									
11	No.	区分	製材・合板 戸建用	製材・合板 戸建用	製材・合板 戸建用	製材・合板 戸建用	製材・合板 戸建用	製材・合板 戸建用	製材・合板 戸建用	製材・合板 戸建用
12	1	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材	製材, 105mm正角材, 柱	国産木材	スギ	8.0	スギ	8.0	スギ
13	2	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材	製材, 105mm正角材, 土台	国産木材	ヒノキ	2.0	ヒノキ	2.0	スギ
14	3	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材	集成材(ヒノキ+スギ), 105×210, 240, 270mm, 梁のうちヒノキ	国産木材	ヒノキ	1.0	ヒノキ	1.0	スギ
15	4	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材	集成材(ヒノキ+スギ), 105×210, 240, 270mm, 梁のうちスギ	国産木材	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ
16	5	製材区分(製材・集成材・CLT等)	CLT	CLT(スギ, ヒノキ), 1820×1820×90mm, 壁	国産木材	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ

- ⑦国産木材・外国産木材の混合製品で構成される樹種の割合がわかるものを使っている場合は、「国産木材・外国産木材の混合製品」の「構成される樹種の割合がわかるもの」の「樹種」(0列)欄から該当する樹種をプルダウンメニューで選択して下さい。④の『国産木材』か『国産木材・外国産木材の混合製品』の別(F列)欄で「混合製品(樹種の割合がわかるもの)」を選択していないと入力できません。

- ⑧1つの製品に国産木材と外国産木材が混合し構成される樹種の割合がわかる場合は、製品情報等から、国産木材の割合を調べて、量を按分して入力できます。

国産木材使用量等の算定シート 入力シート (ver.1.2)																			
1	算定年月日		2024年8月2日																
2	住宅生産者名		〇〇〇〇																
3	建物名称		〇〇郡																
4	延べ面積(m <sup>2</sup> )		160.0																
5	算定者		〇〇〇〇																
6	⑦1つの製品に国産材と外国産木材が混合し構成される樹種の割合がわかる場合は、「混合製品(樹種の割合がわかるもの)」を選択して下さい																		
7	⑧製品情報(層構成)等から、国産材の割合を調べて、量を按分して入力して下さい																		
8	<シートの構成> 「1_入力シート」:住宅に使用した木材の情報を入力するシート 「1_入力シート(記入例)」:「1_入力シート」の入力例があるシート 「2_出力シート」:国産木材活用住宅ツールのレベル等の算定結果を表示するシート 「3_各種係数値」:国産木材と外国産木材から構成される混合製品に係る国産木材使用量やスギの使用量の自動表示を行うために必要																		
9	◆セルの色について、青は必須入力(記述又はプルダウン)、オレンジは任意入力、白は自動計算																		
10	No.	区分	製材・合板区分の 内訳	製材・合板区分 (任意入力)	国産木材/外国産木材/外国産木材の混合製品の別	樹種	使用量 (単位:m <sup>3</sup> )	樹種	使用量 (単位:m <sup>3</sup> )	樹種	使用量 (単位:m <sup>3</sup> )	樹種	使用量 (単位:m <sup>3</sup> )	樹種	使用量 (単位:m <sup>3</sup> )	樹種	使用量 (単位:m <sup>3</sup> )	樹種	使用量 (単位:m <sup>3</sup> )
11	1	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材	製材, 105mm正角材, 柱	国産木材	スギ	8.0	スギ	8.0	スギ	8.0	スギ	8.0	スギ	8.0	スギ	8.0	スギ	8.0
12	2	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材	製材, 105mm正角材, 土台	国産木材	ヒノキ	2.0	ヒノキ	2.0	ヒノキ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0
13	3	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材	集成材(ヒノキ+スギ), 105×210, 240, 270mm, 梁のうちヒノキ	国産木材	ヒノキ	1.0	ヒノキ	1.0	ヒノキ	1.0	スギ	1.0	スギ	1.0	スギ	1.0	スギ	1.0
14	4	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材	集成材(ヒノキ+スギ), 105×210, 240, 270mm, 梁のうちスギ	国産木材	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0
15	5	製材区分(製材・集成材・CLT等)	CLT	CLT(スギ, ヒノキ), 1820×1820×90mm, 壁	国産木材	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0
16	6	合板区分(合板・LVL等)	合板	構造用合板(スギ+ベニヤ), 910×1820, 2730mm, 壁	混合製品(樹種の割合がわかるもの)	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0
17	7	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材	集成材(国産+外国産), 105×210, 240mm, 梁	混合製品(樹種の割合がわかるもの)	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0	スギ	2.0

⑦1つの製品に国産材と外国産木材が混合し構成される樹種の割合がわかる場合は、「混合製品(樹種の割合がわかるもの)」を選択して下さい

⑧製品情報(層構成)等から、国産材の割合を調べて、量を按分して入力して下さい

- ⑨国産木材・外国産木材の混合製品で構成される樹種の割合がわからないものを使っている場合は、「国産木材・外国産木材の混合製品」の「構成される樹種の割合がわからないもの」の「樹種」の「(V列及びW列)欄から該当する木材の樹種(樹種がわからない場合やプルダウンメニューに選択肢が無い場合は「樹種不明」を選択)をプルダウンメニューで選択して下さい。④の「『国産木材』か『国産木材・外国産木材の混合製品』の別」(F列)欄で「混合製品(樹種の割合がわからないもの)」を選択していないと入力できません。

The screenshot shows a spreadsheet interface for calculating domestic wood usage. The main table has columns for '品名' (Product Name), '樹種' (Species), '国産木材' (Domestic Wood), and '外国産木材' (Foreign Wood). A red box highlights a row where the species is '不明' (Unknown) and the material type is '混合製品' (Mixed product). The table also includes a section for '国産木材の活用レベル' (Domestic Wood Utilization Level) and '炭素貯蔵量' (Carbon Storage Capacity).

1つの製品に国産材と外国産木材が混合し構成される樹種が不明、樹種の割合がわからない場合は、「混合製品(樹種の割合がわからないもの)」を選択して下さい

樹種がわからない場合やプルダウンメニューに選択肢が無い場合はプルダウンで「樹種不明」を選択して入力して下さい

- ⑩1つの製品に国産木材と外国産木材が混合し樹種が不明な場合や構成割合がわからない場合には、製品情報等からわかる範囲でプルダウンで国産木材の樹種名を入力することで、木材統計(農林水産省)からの製材・合板区分による国産木材率やスギ・ヒノキの換算比率から国産木材やスギ・ヒノキの使用量が自動的に算出されます。

## 2. 「2\_出力シート」の確認

- ①「1\_入力シート」への情報入力により、国産木材の使用量、スギ・ヒノキの使用量が自動的に計算され、「2\_出力シート」に国産木材活用レベルやスギ・ヒノキの使用量(本数換算値)が表記されます。
- ②国産木材活用レベルが3又は2の場合には、キャッチフレーズの下段に赤字で{(キャッチフレーズを入力できます)}と表記されますので、オレンジ色の入力欄にふさわしいキャッチフレーズを入力して下さい。
- ③さらに、炭素貯蔵量を表記(任意事項)したい場合には、3の「10\_炭素貯蔵量算定入力シート」から所定の情報を入力すると炭素貯蔵量も簡便に計算できます。

1	国産木材使用量等の算定シート 出力シート(ver.1.4) (戸建住宅用)									
2	◆セルの色について、オレンジは任意入力、白は自動計算									
3	算定年月日 2023年〇月〇日									
4	住宅生産者									
5	建物名称									
6	算定者									
7	国産木材の使用量の合計[m] 43.0 延べ面積[m <sup>2</sup> ] 165									
8	国産木材活用レベル レベル 3 単位床面積当たりの国産木材使用量[m <sup>2</sup> /m <sup>2</sup> ] 0.2805									
9	スギの使用量 約 151 本 スギの使用量[m] 34.3									
10	ヒノキの使用量 約 38 本 ヒノキの使用量[m] 8.7									
11	地域産材の使用量の割合[%] 30.0 地域									
12	キャッチフレーズ									
13	キャッチフレーズを入力できます									
14	国産材の使用量[m] 42 国産材の炭素貯蔵量(CO2換算) [-CO2] 28									
15	木材全体使用量[m] 47 木材全体の炭素貯蔵量(CO2換算) [-CO2] 32									
16	レベル3, 2の場合にキャッチフレーズを入力できます。									

国産木材活用レベルやスギ・ヒノキの使用量が表示されます

国産木材活用レベルが3又は2の場合には、キャッチフレーズを入力できます

〇〇材と△△材を用いた国産木材

### 3. 「10\_炭素貯蔵量算定入力シート」の入力

①この入力シートは、林野庁の「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」(以下、「林野庁炭素貯蔵量ガイドライン」という。)に示された「炭素貯蔵量計算シート」をもとに、国産木材活用住宅ラベル協議会にて国産木材活用ラベル用の算定シートとして作成したものです。前述1の国産木材活用住宅ラベル算定シートの「1\_入力シート」に入力された情報に、国産材とその他の木材から構成される複合製品の情報を追加することにより、炭素貯蔵量(CO2換算量)の算定を自動的に行うことができます。

②「1\_入力シート」に入力された情報は自動的に「10\_炭素貯蔵量算定入力シート」に反映

建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の算定シート									
<p>&lt;シート構成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[10_炭素貯蔵量算定入力シート]-国産木材活用住宅ラベル算定シートの「1_入力シート」に入力した複合製品の枝が、外国産木材の情報追加入力するシート</li> <li>[11_炭素貯蔵量算定入力シート]-[10_炭素貯蔵量算定入力シート]の入力情報があるシート</li> <li>[12_炭素貯蔵量算定入力シート]-炭素貯蔵量等の算定結果を表示するシート</li> </ul> <p>〇この入力シートは、林野庁の「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」(以下、「ガイドライン」という。)に示された「炭素貯蔵量計算シート」をもち、国産木材活用住宅ラベル協議会にて国産木材活用住宅ラベル用の算定シートとして作成したものです。国産木材活用住宅ラベル算定シートの「1_入力シート」に入力された情報に、国産材とその他の木材から構成される複合製品の情報を追加入力することにより、炭素貯蔵量(CO2換算量)の算定を自動的に行うことができます。</p> <p>〇この入力シートでは、ガイドラインの参考1(樹種別炭素貯蔵量の値)、参考2(合板、木質ボードの炭素貯蔵量の値)で示した及び参考3(建築物用材の炭素含有率)の値で示した、炭素貯蔵量に換算することを前提としています。</p> <p>〇他の炭素等の値を算出する場合は、適宜セルに入力された値を改変して利用できます。</p> <p>〇炭素貯蔵量の算出においては、完した建築物本体に利用されている木材の量を入力することとなりますが、当該木材の量については、把握できる範囲で事業者等において算出をいただくは構いません。</p>									
◆セルの色について、青は必須入力(記述又はプルダウン)、オレンジは任意入力、白は自動計算、灰色は入力不可									
No	区分	部材 製品名称	国産材	外国産材(国産材以外の区分不明を含む)	合計	木材の炭素含有率	建築物に利用した炭素貯蔵量 [単位+CO <sub>2</sub> ]	国産材 [単位+CO <sub>2</sub> ]	外国産材以外 [単位+CO <sub>2</sub> ]
1	壁材(中) (部材-構造材-C17等)	部材 105mm定厚材、柱	スギ	0.0	0.331	0.0	0.500	4.8	4.8
2	壁材(中) (部材-構造材-C17等)	部材 105mm定厚材、柱	ヒノキ	2.0	0.383	2.0	0.500	1.4	1.4
3	壁材(中) (部材-構造材-C17等)	部材(ヒノキ+スギ) 105×110mm定厚材(105mm定厚材+110mm定厚材)	ヒノキ	1.0	0.383	1.0	0.500	0.7	0.7
4	壁材(中) (部材-構造材-C17等)	部材(スギ) 105×110mm定厚材	スギ	2.0	0.331	2.0	0.500	1.2	1.2
5	壁材(中) (部材-構造材-C17等)	部材(スギ) 105×110mm定厚材	スギ	2.0	0.331	2.0	0.500	1.2	1.2
6	床材(中) (合板-C17等)	部材(スギ+ヒノキ) 18mm厚 210×210mm定厚材	スギ	0.0	0.542	0.542	0.0	0.493	0.0
7	壁材(中) (部材-構造材-C17等)	部材(スギ) 105×110mm定厚材	スギ	2.0	0.331	2.0	0.500	0.0	0.0

②前述の「1\_入力シート」に入力した情報がそのまま反映されます

されます。但し、「1\_入力シート」に複数の樹種からなる「混合製品」として入力したものは、このシートでは樹種、利用量が反映されません。このような場合には、シートの55行以下の「混合製品の内訳」欄に入力して下さい。「混合製品の内訳」の入力方法については、⑤以下の記入方法を参照して下さい。

- ③「林野庁炭素貯蔵量ガイドライン」で示されている区分（D列）、樹種（F列、I列）を入力すると木材の密度（H列、K列）が自動で表示されます。密度が自動表示されない場合は、手入力で密度を入力して下さい。
- ④樹種（F列、I列）のプルダウンで無い樹種は、手動で入力して下さい。（全角カタカナ）タブ「99\_データベース」の樹種名を入力すると自動で木材密度が表示されます。
- ⑤「1\_入力シート」に複数の樹種からなる「混合製品」として入力したものは、このシートでは樹種、利用量が反映されません。このような場合には、シートの55行以下の「混合製品の内訳」欄に入力して下さい。

建築物に利用した木材の量 [単位:m]										
No	区分	部材、製品名等	国産	樹種	利用 [単位:m]	樹種	[単位:m]	[単位:t/m]		
1	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材、105mm正角材、柱		スギ	8.0		0.331			
2	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材、105mm正角材、土台		ヒノキ			0.383			
3	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材(ヒノキ+スギ)、105×210、240、270mm、梁のラチスギ		ヒノキ			0.383			
4	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材(ヒノキ+スギ)、105×210、240、270mm、梁のラチスギ		スギ	2.0		0.331			
5	製材区分(製材・集成材・CLT等)	CLT(スギ、ヒノキ)、1820×1820×120mm		スギ	2.0		0.331			
6	合板区分(合板・LVL等)	構造用合板(スギ+ベイマツ)、910×2730mm、壁、床			0.0		0.542			0.542
7	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材、105mm正角材、柱			0.0					
8	合板区分(合板・LVL等)	LVL、105mm、梁			0.0					
小計					18.0					0.0
6-1	合板区分(合板・LVL等)	構造用合板(スギ+ベイマツ)、910×2730mm、壁、床		スギ	1.3		0.542			0.542
6-2	合板区分(合板・LVL等)	構造用合板(スギ+ベイマツ)、910×2730mm、壁、床		ベイマツ			0.542	0.7		0.542

- ⑥混合製品については、混合製品の番号を転記して樹種毎に枝番を付けて下さい。
- ⑥-1 例えば、構造用合板（スギ+ベイマツ）の場合、「10\_炭素貯蔵量算定入力シート」の55行以降の混合製品の内訳欄にスギとベイマツの2段に分けて No. の枝番を付して下さい。

- ⑥-2 この場合、スギについては国産材の樹種の欄（F列）に「スギ」と入力し、利用量の欄（G列）にスギの利用量（単位：m<sup>3</sup>）を入力し、ベイマツについてはその下の行の外国産材の樹種の欄（I列）に「ベイマツ」と入力し、利用量の欄（J列）にベイマツの利用量（単位：m<sup>3</sup>）を入力して下さい。

建築物に利用した木材の量 [単位:m <sup>3</sup> ]									
No	区分	部材、製品名等	樹種	利 用 量 [単位:m <sup>3</sup> ]	密度 [単位:t/m <sup>3</sup> ]	炭素含有率	炭素含有率	炭素含有率	炭素含有率
1	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材、105mm正角材、柱	スギ	0.331					
2	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材、105mm正角材、土台	ヒノキ	0.383					
3	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材(ヒノキ+スギ)、105×210、240、270mm、梁のうちヒノキ	ヒノキ	0.383					
4	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材(ヒノキ+スギ)、105×210、240、270mm、梁のうちスギ	スギ	2.0	0.331				
5	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材(ヒノキ+スギ)、1820×1820×90mm、梁	スギ	0.331					
6	合板区分(合板・LVL等)	構造用合板(スギ+ベイマツ)、910×1820、2730mm、壁、床		0.0	0.542				0.542
7	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材、105mm正角材、柱		0.0					
8	合板区分(合板・LVL等)	LVL、110mm、梁		0.0	0.542				0.542
小計				18.0					0.0
6-1	合板区分(合板・LVL等)	板(スギ+ベイマツ)、910×1820、2730mm、壁、床	スギ	1.3	0.542				0.542
6-2	合板区分(合板・LVL等)	構造用合板(スギ+ベイマツ)、910×1820、2730mm、壁、床		0.542				ベイマツ	0.7
	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材(国産+外国産)、105×210、240、270mm、梁のうちスギ						樹種不明	2.0
									0.331

⑤「混合製品」の場合は、このシートでは樹種、利用量が反映されません

⑥「混合製品」については、混合製品の番号を転記して樹種毎に枝番を付けて下さい

⑥-2 スギについては国産材の欄(F列)に、ベイマツについてはその下の行の国産材以外の欄(I列)に樹種名を入力し、それぞれその右側の欄に利用量を入力して下さい

- ⑥-3 これにより、スギ、ベイマツの密度と炭素含有率が自動的に選択され表示されます。

- ⑥-4 これらによって、スギ、ベイマツの利用量、密度、炭素含有率に炭素からCO<sub>2</sub>に換算する係数(44/12)が乗じられ、炭素貯蔵量が自動的に計算されます。

- ⑦ 樹種が不明な「樹種不明」の木材は、「国産材以外(国産材・国産材以外の区分不明を含む)」の欄(I列)に「樹種不明」と入力して下さい。この場合、密度、炭素含有率については、林野庁炭素貯蔵量ガイドラインに準拠してデフォルト値が適用されます。

建築物に利用した木材の量【単位:m <sup>3</sup> 】												
No	区分	部材、製品名等	国産材			国産材以外(国産材・国産材以外の区分不明を含む)						
			樹種	利用量 【単位:m <sup>3</sup> 】	木材の密度 【単位:t/m <sup>3</sup> 】	樹種	利用量 【単位:m <sup>3</sup> 】	木材の密度 【単位:t/m <sup>3</sup> 】				
1	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材、105mm正角材、柱	スギ									
2	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材、105mm正角材、土台	ヒノキ									
3	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材(ヒノキ+スギ)、105×210、240、270mm、梁のうちヒノキ	ヒノキ									
4	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材(ヒノキ+スギ)、105×210、240、270mm、梁のうちスギ	スギ									
5	製材区分(製材・集成材・CLT等)	CLT(スギ、ヒノキ)、1820×1820×90mm、梁	スギ	2.0	0.331							
6	合板区分(合板・LVL等)	構造用合板(スギ+バイマツ)、910×1820mm、床		0.0	0.542						0.542	
7	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材(国産+外国産)、105×210、240mm、梁		0.0								0.542
8	合板区分(合板・LVL等)	LVL、105×210mm、梁		0.0	0.542							0.542
9	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材、(間柱、母屋、番木等)	スギ	2.0	0.331							
10	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材、造作	スギ	1.0	0.331							

⑦「樹種不明」の場合は、このシートでは樹種、利用量が反映されません

29												
30	小計				0.0							
31	小計				18.0						0.0	
32	1	合板区分(合板・LVL等)	構造用合板(スギ+バイマツ)、910×1820mm、床	スギ	1.3	0.542						0.542
33	2	合板区分(合板・LVL等)	構造用合板(スギ+バイマツ)、910×1820mm、床	バイマツ		0.7	0.542					0.542
34	1	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材(国産+外国産)、105×210、240mm、梁					樹種不明	2.0			0.331
35	2	合板区分(合板・LVL等)	LVL、105×210mm、梁	スギ	3.0	0.542						0.542
36	3	合板区分(合板・LVL等)	LVL、105×210mm、梁	ヒノキ	1.3	0.542						0.542
37	4	合板区分(合板・LVL等)	LVL、105×210mm、梁								0.7	0.542

⑦「樹種不明」の部材番号を転記して下さい

⑦国産材以外の欄(I列)に「樹種不明」を入力し、その右側の欄に利用量を入力下さい



#### 4. 「12\_炭素貯蔵量算定出力シート」の確認

- ① 「1\_入力シート」の入力情報をベースとして、追加的に「10\_炭素貯蔵量算定入力シート」に情報を入力することで、林野庁炭素貯蔵量ガイドラインに準拠して国産材や木材全体の炭素貯蔵量が自動的に計算され、「12\_炭素貯蔵量算定出力シート」に炭素貯蔵量が表記されます。
- ② これにより、2の「2\_出力シート」の炭素貯蔵量の欄に計算結果が表記されます。

No.	A	B	C	D	E	F	G	H	I	
1		国産木材使用量等の算定シート 出力シート(案)								
2										
3		◆セルの色について、オレンジは任意入力、白は自動計算								
4		算定年月日	2024年〇月〇日							
5		住宅生産者名	〇〇〇〇							
6		建物名称	〇〇邸							
7		算定者	〇〇〇〇							
8		国産木材の使用量の合計[m <sup>3</sup> ]	25.0	延べ面積[m <sup>2</sup> ]					150	
9		国産木材活用レベル	レベル	3	単位床面積当たりの国産木材使用量[m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> ]				0.1666	
10		スギの使用量	約	85本	スギの使用量[m <sup>3</sup> ]				19.3	
11		ヒノキの使用量	約	21本	ヒノキの使用量[m <sup>3</sup> ]				3.7	
12		地域産材の使用量の割合[%]	80.0	地域産材	〇〇杉	の使用量[m <sup>3</sup> ]			15	
13	地域産材			△△松	の使用量[m <sup>3</sup> ]			3		
14	地域産材の使用量の合計[m <sup>3</sup> ]									
15		キャッチフレーズ	〇〇杉と△△松を用いた国産木材の家							
16		(キャッチフレーズを入力できます)								
17		国産木材使用量[m <sup>3</sup> ]			2	国産材の炭素貯蔵量(CO <sub>2</sub> 換算)	[t-CO <sub>2</sub> ]		17	
18		木材全体使用量[m <sup>3</sup> ]			2	木材全体の炭素貯蔵量(CO <sub>2</sub> 換算)	[t-CO <sub>2</sub> ]		21	

出力シートに炭素貯蔵量が表記されます

## Ⅱ. 共同住宅、併用住宅用計算シート（棟別略算用）

### 1. 「1\_入力シート」の入力

- ① 共同住宅や併用住宅について、国産木材活用レベルを棟別に略算する場合に用います。  
（共同住宅や併用住宅の戸数から1戸当たりの国産木材使用量を略算するので、住宅の規模がほぼ同程度の共同住宅や併用住宅について算出する場合に適しています。）
- ② 戸建住宅用計算シートと基本的な入力方法は同じです。（Ⅰの1参照）
- ③ 共同住宅や併用住宅の住宅部分（共用部分を含む。）の延べ面積を記入して下さい。
- ④ 共同住宅や併用住宅の住宅戸数を記入して下さい。

算定年月日		2026年〇月〇日			
住宅生産者名		〇〇〇〇			
建物名称		〇〇木造マンション			
延べ面積[m <sup>2</sup> ]（外構部の水平投影面積を含む。）		1650.0	住宅部分の面積[m <sup>2</sup> ]		1287.5
算定者			住宅の戸数[戸]		10
<small>外構部（木の塙、門、ウッドデッキ等）に用いられた木材を算定するには、外構部の水平投影面積を加算して下さい。</small>					
No.	区分	製材		木材	樹種
1	製材区分（製材・集成材・CLT等）	製材	製材、105mm正角材、柱	国産木材	スギ
2	製材区分（製材・集成材・CLT等）	製材	製材、105mm正角材、土台	国産木材	ヒノキ
3	製材区分（製材・集成材・CLT等）	集成材	集成材（ヒノキ+スギ）、105×210、240、270mm、梁のうちヒノキ	国産木材	ヒノキ
4	製材区分（製材・集成材・CLT等）	集成材	集成材（ヒノキ+スギ）、105×210、240、270mm、梁のうちスギ	国産木材	スギ
5	製材区分（製材・集成材・CLT等）	CLT	CLT（スギ、ヒノキ）、1820×1820×90mm、壁	国産木材	スギ

### 2. 「2\_出力シート」の確認

- ① 「1\_入力シート」への情報入力により、棟別に国産木材の使用量、スギ・ヒノキの使用量が自動的に計算され、「2\_出力シート」に棟全体と当該住宅の1戸当たりの国産木材活用レベルやスギ・ヒノキの使用量（本数換算値）が表記されます。
- ② 国産木材住宅活用レベルの算定は、棟別に単位床面積当たりの国産木材使用量から算出するので、棟別に共通の値となります。
- ③ 棟全体のスギ・ヒノキの使用量（本数換算値）のほか、当該住宅の1戸当たりのスギ・

ヒノキの使用量（本数換算値）が表記されます。

国産木材使用量等の算定シート 出力シート(共同住宅、併用住宅用)(棟別略算用)(ver.1.0)			
◆セルの色について、オレンジは任意入力、白は自動計算			
算定年月日	25年〇月〇日		
住宅生産者名	〇〇〇〇		
建物名称	木造マンション		
算定者	〇〇〇〇		
国産木材の使用量の合計[m <sup>3</sup> ]	429.8	延べ面積[m <sup>2</sup> ]	1650
<b>国産木材活用レベル</b>	<b>レベル 3</b>	単位床面積当たりの国産木材使用量[m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> ]	0.2605
住宅の戸数[戸]	10 戸	当該住宅の1戸当たりの面積[m <sup>2</sup> /戸]	123.75
<b>棟全体のスギの使用量</b>	<b>約 1509 本</b>	棟全体のスギの使用量[m <sup>3</sup> ]	342.8
<b>当該住宅の1戸当たりのスギの使用量</b>	<b>約 114 本</b>	当該住宅の1戸当たりのスギの使用量[m <sup>3</sup> /戸]	25.713
<b>棟全体のヒノキの使用量</b>	<b>約 373 本</b>	ヒノキの使用量[m <sup>3</sup> ]	66.5
<b>当該住宅の1戸当たりのヒノキの使用量</b>	<b>約 28 本</b>	当該住宅の1戸当たりのヒノキの使用量[m <sup>3</sup> /戸]	4.9875
地域産材の使用量の割合[%]	90.0	地域産材 <b>〇〇杉</b> の使用量[m <sup>3</sup> ]	300
		地域産材 <b>△△松</b> の使用量[m <sup>3</sup> ]	60
		地域産材の使用量の合計[m <sup>3</sup> ]	360
キャッチフレーズ	<b>〇〇杉と△△松を用いた国産木材の家</b>		
(キャッチフレーズを入力できます)			
国産木材使用量[m <sup>3</sup> ]	366	国産材の炭素貯蔵量(CO2換算) [t-CO2]	229
木材全体使用量[m <sup>3</sup> ]	371	木材全体の炭素貯蔵量(CO2換算) [t-CO2]	234
ラベル3、2の場合にキャッチフレーズを入力できます。			

②レベルの算定は、棟別に単位床面積当たりの国産木材使用量から算出するので、共通の値になります。

### 3. 「10\_炭素貯蔵量算定入力シート」の入力、出力

- ① 「10\_炭素貯蔵量算定入力シート」の入力、出力方法は、戸建住宅用計算シートと同じです。(Iの3, 4参照)

### Ⅲ. 共同住宅、併用住宅用計算シート（戸別計算用）

#### 1. 「1\_入力シート」の入力

- ① 共同住宅や併用住宅について、国産木材活用レベルを戸別に計算する場合に用います。  
（個々の住宅の床面積と共同住宅や併用住宅の全体の延べ面積との比率から個々の住宅の国産木材使用量を計算するので、住宅のタイプや規模が異なる共同住宅や併用住宅について算出する場合に適しています。）
- ② 戸建住宅用計算シートと基本的な入力方法は同じです。（Ⅰの1参照）
- ③ 共同住宅や併用住宅の当該住宅の面積（住宅の専用部分に共用部分の持ち分相当面積を加算した値）を記入して下さい。

算定年月日	2025年〇月〇日			<シートの構成> 「1_入力シート」 「1_入力シート」 「2_出力シート」 「3_各種係数」 ◆セルの色に	
住宅生産者名	〇〇〇〇				
建物名称	〇〇邸(〇〇木造マンション)				
延べ面積[m <sup>2</sup> ](外構部の水平投影面積を含む。)	1650.0	当該住宅面積(共用部分を含む。)[m <sup>2</sup> ]	123.75		
算定者	〇〇〇〇				
外構部(木の塀、門、ウッドデッキ等)に用いられた木材を算入する際には、外構部の水平投影面積を加算して下さい。					
No.	区分	製材・合板区分の内訳	③住宅（共用部分の持ち分相当面積を含む。）の延べ面積を記入して下さい。	「国産木材」か「国産木材・外国産木材の混合製品」の別	樹種
1	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材	製材、105mm正角材、柱	国産木材	スギ
2	製材区分(製材・集成材・CLT等)	製材	製材、105mm正角材、土台	国産木材	ヒノキ
3	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材	集成材(ヒノキ+スギ)、105×210、240、270mm、梁のうちヒノキ	国産木材	ヒノキ
4	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材	集成材(ヒノキ+スギ)、105×210、240、270mm、梁のうちスギ	国産木材	スギ
5	製材区分(製材・集成材・CLT等)	CLT	CLT(スギ、ヒノキ)、1820×1820×90mm、壁	国産木材	スギ

#### 2. 「2\_出力シート」の確認

- ① 「1\_入力シート」への情報入力により、棟別に国産木材の使用量、スギ・ヒノキの使用量が自動的に計算され、「2\_出力シート」に棟全体と当該住宅の国産木材活用レベルやスギ・ヒノキの使用量（本数換算値）が表記されます。
- ② 国産木材住宅活用レベルの算定は、棟別に単位床面積当たりの国産木材使用量から算出するので、棟別に共通の値となります。

- ③ 棟全体のスギ・ヒノキの使用量（本数換算値）のほか、当該住宅のスギ・ヒノキの使用量（本数換算値）が表記されます。

国産木材使用量等の算定シート 出力シート(共同住宅、併用住宅用)(戸別計算用)(ver.1.4)			
◆セルの色について、オレンジは任意入力、白は自動計算			
算定年月日	年〇月〇日		
住宅生産者名	〇〇〇〇		
建物名称	〇本建マンション		
算定者	〇〇〇〇		
国産木材の使用量の合計[m]	429.8	延べ面積[m <sup>2</sup> ]	1650
国産木材活用レベル	レベル 3	単位床面積当たりの国産木材使用量[m <sup>2</sup> /m <sup>2</sup> ]	0.2605
		当該住宅の面積(共用部分を含む。)[m <sup>2</sup> ]	123.75
棟全体のスギの使用量	約 1509 本	棟全体のスギの使用量[m]	342.8
当該住宅のスギの使用量	約 114 本	当該住宅のスギの使用量[m/戸]	25.713
棟全体のヒノキの使用量	約 373 本	ヒノキの使用量[m]	66.5
当該住宅のヒノキの使用量	約 28 本	当該住宅のヒノキの使用量[m/戸]	4.9875
地域産材の使用量の割合[%]	90.0	地域産材 〇〇杉 の使用量[m]	300
		地域産材 △△松 の使用量[m]	60
		地域産材の使用量の合計[m]	360
キャッチフレーズ	〇〇杉と△△松を用いた国産木材の家		
(キャッチフレーズを入力できます)			
国産木材使用量[m]	366	国産材の炭素貯蔵量(CO2換算) [t-CO2]	229
木材全体使用量[m]	371	木材全体の炭素貯蔵量(CO2換算) [t-CO2]	234
ラベル3、2の場合にキャッチフレーズを入力できます。			

②レベルの算定は、棟別に単位床面積当たりの国産木材使用量から算出するので、共通の値になります。

### 3. 「10\_炭素貯蔵量算定入力シート」の入力、出力

- ② 「10\_炭素貯蔵量算定入力シート」の入力、出力方法は、戸建住宅用計算シートと同じです。(Iの3, 4参照)